

# 香川県から酪農家・農事組合法人の視察受入

## 「WCS確保に大きな関心」

### 専門農協があることがうらやましい！

広酪は、香川県農業機械銀行協議会並びに香川県農業経営者協議会稲作部会からの視察を受入れ、総勢二十七名の訪問を受けた。

視察目的は、広酪の飼料用稲確保とその活用の取り組みにあり、西中晃参事からは組織概要と組合事業の展開を、藏崎哲治課長(生産振興課)からは、飼料用稲確保の経緯・経過、飼料用稲を原料とした乳用牛のTMR製造に就いて説明にあたった。

特に飼料用稲(WCS)を原料とする製造飼料「広酪TMR20WCS」の実績においては、夏場の乳成分が安定が図られたことや、岩竹重城組合長が掲げる『一円でも安く、シンプル・イズ・ベスト』の給与事例等、TMR未利用者も他社からの変更、利用が高まっている状況とともに、五十二の農事組合法人等との間に飼料用稲栽培の作付契約を交わし、刈取後は速やかにその代金を全額一括して支払っていること等を紹介した。

来所者の内には酪農家もおられ「香川県には専門農協としての酪農協がない」と、とてもうらやましい。別の機会に広酪を再度訪問して話が聞きたいこと飼料用稲だけでなく、広酪が行う各種事業運営に対しての関心を示された。

香川県では、「飼料用専用品種(荖葉タイプ)の栽培ではなく、コシヒカリを飼料用稲として栽培されていることから種実が多い」、「乳用牛への給与量制限(現物で4kg)が低いため多給出来ない」、また、飼料用稲専用品種の収穫適期やコンタミ対策等の課題もあり、多くの質問を受けた。

その他、(株)ライスファーム藤原(三次市三良坂町)や当組合の飼料用稲収穫作業機やラップマシンも視察された。



日々徒然

## かがやき

一生懸命な人は希望を語り、怠けている人は不満を語る

▼「どうした、今冬は？」と空を見上げてしまっ程の暖冬となりました。

▼昨年十二月から二月にかけては、目立った降雪もなく、今季のスキー場や雪合戦大会は盛り上がり欠けたのではないかと心配します。

▼この暖冬。二〇〇七年の亥年も全国的に気温が高く、西日本と東日本は統計史上最も暖かい「スーパード暖冬」だったようです。

▼「夏は猛暑で、冬も暖冬」となると、温暖化を実感しない訳にはいかない深刻な事態となっております。

▼さて、昨年十二月三十日に発効したTPPは、日本へのTPP発効国からの牛肉輸入量が前年一月に比べて一・五倍を超える三万三千トンに急増と報じられました。

▼牛肉は発効一年目から関税が下がっていることから、小売店の販売促進キャンペーン等が影響して、安い外国産肉が大量に流入したと見られています。

▼これら外国産牛肉は、国産牛肉と競合する脅威であり、国内畜産農家にとっては不安と今後の動向が懸念されます。

▼話題は一転して、ある学校の先生の話で「一生懸命な人は希望を語り、怠けている人は不満を語る」と聞きました。一生懸命な人は不満を考え、常に自らが提案と改善を繰り返す、自らが不満を

解消する「セルフコントロール」が出来るからではないかとインスピレーションが働きました。

▼いま、世の中は「働き方改革」の中で、AI(人工知能)等の導入が考えられています。人間の知能を上回り、自己判断が出来る「鉄腕アトム」のようなロボットが一台あれば、ひとりで会社運営すら出来るのかもしれない。

▼AIが人間を超える存在となりうるとも言われていますが、こうした脅威に対して、我々はどう対処すれば良いのでしょうか。

▼その答えは必ずしも必要ではなく、どんな状況になっても対応できる「適応力」を身に付けること。それが重要と促されました。

▼その力とは「読解力」。ただ単に文章を読みこなす能力ではなく、相手の気持ちを読み解き、真意を推し量る力、状況を読み解き、置かれた環境の中で、何をなすべきかを感じ取る力。課題を読み解き困難な状況の中で、解決策を如何に提案できる力を養うか。

▼どんな逆境にさらされようと、「なぜやりにならず、人をうらやましがらず、自分がすべき努力をせよ」と先生はおっしゃられています。

▼我々、協同組合の構成員であって、組合員、役員、職員がこの組織の中で「この組織のために自分は何が出来、先を見据えた提案と行動ができれば、三位一体の強い組織が成り立つのではないだろうか。」

(T・Y)  
美湯 仙人